

地域医療室が開設15年目を迎えました

地域連携は市立札幌病院の 大きな柱の一つ

理事
加藤 法喜



市立札幌病院の地域連携センター（以下、センター）が、**後方連携**を主要な任務とし、従来の機構を改革して新たに設置されたのが平成20年4月でしたから、今年度（平成22年度）は設置後3年目の年となり、その機関紙「かざぐるま」は2年目を迎えました。センターを通しての紹介状のある受診予約は平成20年度が1,068件/年、平成21年度が1,337件/年で、センターを通さずに予約なしで受診される紹介状をお持ちの患者さんも含めると、紹介受診は各々の年度で7,613件/年、7,228件/年で、返書率はほぼ100%でした。徐々にではありますが、センターが札幌市はもとより全道の医療機関、市民の皆様にご理解いただけるようになってきておりますことを先ずは感謝申し上げます。

市立札幌病院は、市民のための地域完結型医療を担う中核的な急性期総合病院として、高度・特殊・先進医療および後進の教育・研修を推進するとともに、地域の医療機関との連携を強化することを、経済性の向上とともに病院運営の大きな柱（最重要課題）として取り組んでまいりました。平成21年度に策定した「市立札幌病院新パワーアッププラン（以下、プラン）」は、これらの課題を確実に実現するための3ヶ年に亘る行動計画ですが、2年目の今年度は4つの重点取組項目からなる**札幌市病院局実施プラン**（表）を策定してプランの達成に向けて努力している所です。

表 平成22年度札幌市病院局実施プラン

- 1 診療体制の強化及び病棟機能の再編（注）
- 2 働きやすい職場環境づくりと職員の能力向上
- 3 サービスアップの推進
- 4 経営改善への取組み

（注）地域の医療機関との連携を強化するとともに、静療院成人部門の本院統合と児童部門の一般行政病院化などの精神科医療の再編に取組む。

地域医療室15年の歩み

平成7年10月に市立札幌病院が桑園駅そばの現在地に新築移転する同時に、地域医療連携を目的とした、札幌市医師会との協同運営となる**札幌市医師会地域医療室（以下、地域医療室）**が院内に設置されました。地域医療連携を主目的とした組織は当時の北海道・札幌市としては極めて先進的なものでした。以来、札幌市や札幌市医師会をはじめ関係各位のご理解とご尽力により着実に業績を伸ばしております。受診予約（図）は、開設の年の平成7年度（5ヶ月間）の164件からスタートして、平成21年度には放射線診断科を筆頭に、眼科、消化器内科、小児科、循環器内科、整形外科、泌尿器科などの28診療科の計3,059件と、初めて3,000件を突破するなど、右肩上がりの傾向を示しております。検査予約（図）はCT、MRI、RIなどを中心に、例年800～1,000件で推移してあまり変動は見られません。これは各医療機関の医療機器が整備された結果を反映しているものと推測しております。なお、平成22年10月に**地域医療室は満15歳の誕生日**を迎えます。ここに改めて札幌市医師会会員の諸先生に感謝申し上げますとともに、今後とも地域医療室のますますのご利用を宜しくお願い申し上げます。

図 受診・検査予約の年次推移（地域医療室）

